

大／阪／の／建／築／まちあるき——「東大阪」



ひがしおおさかしあさひまちちょうしゃ (きゅうひらおかしちょうしゃ)
東大阪市旭町庁舎 (旧枚岡市庁舎)



エントランス立面



北西立面



議場の三角屋根がある屋上庭園



螺旋階段



音楽的ガラス面

所在地： 東大阪市旭町 1-1
 最寄駅： 近鉄奈良線瓢箪山駅下車
 北へ約 700m
 利 用： 図書館や行政サービスコーナーなど
 TEL： 072-988-6624
 旭町行政サービスコーナー

この建築は、3市が合併して東大阪市になる前の1市である枚岡市(当時の人口6万余)の市庁舎として、1964年に生駒山の麓に竣工した。敷地は、5,761㎡で、地下1階、中地階、地上3階の鉄筋コンクリート造、延べ面積は、4,380㎡。設計は、日本近代を代表する坂倉準三建築研究所である。

この建築の特徴は、以下のものである。最上部の伝統的な日本の社寺を思わせる大きな庇。直接光の防止と下方からの視線を遮って直接山肌の自然に繋がる様に努めた上2層のバルコニーの水平と、日光調節をするとともに外部からのプライバシーを確保する下2層のブリーズ・ソレイユの格子との清新で均整のとれたプロポーション。天井から床までの全面ガラス面は、内外空間の連続を可能にすると共に、サッシュの縦線を律動させる事によって積極的なリズム感を与える音楽的ガラス面。下階に光を導くために作られたキャノソルミエールこと光の大砲と呼ばれるトップライト。山裾の地形を利用すると共に一部敷地に土盛りをして4階建ての2階を1階入口とするアプローチ。個性的な大きく反り返ったエントランスの庇。あたかも屋外劇場の客席の様に見える議場の三角屋根が飛び出た屋上庭園。有機的に1階から屋上階まで貫かれた螺旋階段。コンクリート打ち放しによる力強い造形。

建物を囲む自然環境との調和から建築物のディテールに至るまで美を追求し、モダニズムの普遍的な合理性と日本の伝統的な空間の特性との調和をもたらしたこの建物は、日本近代のモダニズム建築を代表する建物である。(川北武志)